

## ちばセンセイの健康ワンポイントアドバイス

インフルエンザの予防接種は打ちましたか。白糠や遠矢では学級閉鎖になったところもあるようです。大楽毛地区ではまだ流行の兆しはありませんが、予防接種を打った翌日に効果が出るわけではありません。なるべく早めに打つのが良いでしょう。

さて今回は、胃潰瘍の薬の話です。そもそも胃潰瘍とは何でしょうか。胃の粘膜がただれて、それが深くなったものが潰瘍です。粘膜層だけに及ぶものを胃炎、粘膜下層にまで及ぶと胃潰瘍と言います。さらに深くまでおよび、筋層、漿膜層を超えると胃に孔が空いたという事になります。

消化性潰瘍治療薬には、胃の粘膜を攻撃しようとする胃酸の分泌を抑えたり、胃酸を中和するような薬（攻撃因子抑制薬）と胃の粘膜を保護したり、痛んだ粘膜を修復するような薬（防御因子増強薬）があります。

それぞれ利点がありますが、やはり一番有効なのは攻撃因子抑制薬で、その中でも酸分泌抑制薬が第一選択薬として使われます。胃酸分泌薬にもいろいろありますが、今から40年ぐらい前に発売されたH<sub>2</sub>受容体拮抗薬の登場は、胃潰瘍治療を大きく変えたと言っても良いでしょう。昔は胃潰瘍で手術をすることは珍しいことではありませんでした。今では珍しいことになりました。さらに胃酸分泌抑制効果の高いプロトンポンプ阻害薬は、胃潰瘍の治癒率はさらに高いものとなりました。

H<sub>2</sub>受容体拮抗薬は投与期間に制限はないのですが、プロトンポンプ阻害剤は、胃潰瘍に対しては8週間、十二指腸潰瘍に対しては6週間の制限があります。